Sysmex

BeFine!

第41期営業の中間ご報告

2007年4月1日～2007年9月30日

証券コード 6869

シスメックス株式会社

BeFine!
第41期営業の中間ご報告

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を拡げつつあるシスメックス。健康への関心がますます高まる社会のなか、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「Be Fine!（健やかに！）」は、シスメックスグループと株主の皆様の架け橋として四半期ごとに発行しています。

業績の推移 …… 1
ごあいさつ …… 1

事業のご報告

所在地別セグメント …… 3
トピックス …… 4

特　集

フォーカス オン シスメックス
シスメックスを知っていただくために
株主様アンケートのご報告 …… 5

シスメックスのこれからを知っていただくために
BRICsにおける事業活動の強化と新たな市場の創出 …… 7

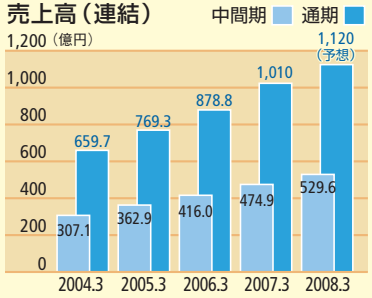
財務諸表の概要

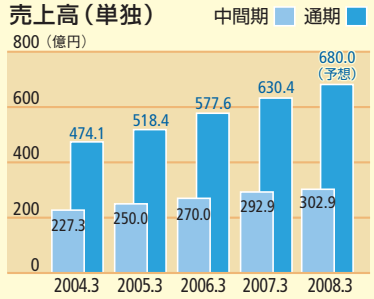
連 結 …… 9
単 独 …… 11

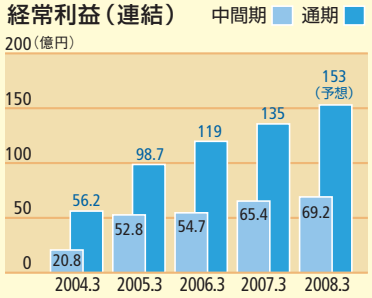
事業別売上高・品目別売上高／商品一覧 …… 12
株式の状況／会社概要／株主メモ／役員のご紹介 …… 13
IR・広報室からのお知らせ

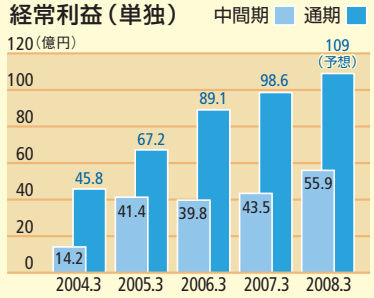
表紙：公園 健やかな秋

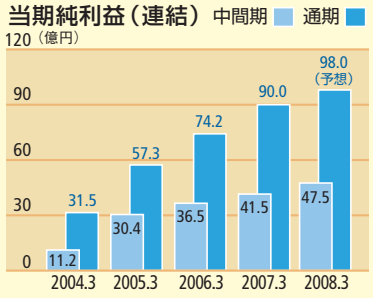
業績の推移

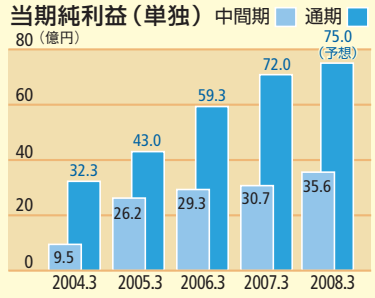












2008年3月期通期業績予想（連結）

2008年3月期通期業績予想につきましては、現時点では2007年5月10日に公表しました期初予想どおりとし、変更いたしません。（下記の表のとおり）

なお、今後の平均為替レートは、対米ドル115円、対ユーロ150円を想定しています。

また、配当金につきましても期初予定どおり中間期は1株当たり20円とし、期末は20円、年間では40円を予定しています。

（2008年3月期　連結通期業績予想）　（単位:億円）

	売上高	経常利益	当期純利益
2008年3月期（予想）（2007年5月発表）	1,120	153	98
2007年3月期実績	1,010	135	90

ごあいさつ

国内の市場環境が厳しい中間期として過去最高の

売上高は8期連続の増収、経常利益は4期連続の増益

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

医療を取り巻く環境は、先進諸国では医療制度改革による医療費の増加抑制が進められています。一方、中国・アジア諸国では経済成長に伴う医療インフラの整備が進められています。

このような状況のもと、当社グループの当中間期連結決算は、売上高では8期連続の増収、経常利益では4期連続の増益を達成し、中間期としては過去最高の業績となりました。

しかし、日本市場においては、医療費の増加抑制の影響を受けるなど厳しい状況にあり、残念ながら減収となりました。このような国内のマイナスを好調な海外の伸びで補い、連結売上高は前年同期比11.5%増加となる54.7億円の増収を達成しました。

海外では為替レートの円安の追い風もあり、特に欧州が安定的に成長しました。また、米州の血球計数分野における売上高の増加も収益に貢献しました。米国での市場認知度の向上に伴い、米州の売上高は前年同期比11.9%増加し、営業利益は前年同期比233.3%増加するなど着実に伸長しています。

利益面では、海外で積極的に行っている販売力強化

なか、海外が好調に推移し、業績を達成しました。

のため、現地代理店の子会社化などの投資により、販売費及び一般管理費が増加しましたが、増収による粗利の増加と為替による営業利益の増加によりこれを補いました。経常利益は前年同期比5.8%増加し、中間純利益は前年同期比14.6%の増加となりました。

当中間期の配当金につきましては、1株当たり20円とし、期末は20円、年間では40円を予定しています。

新製品や販売・サービス網の拡充など多面的な取り組みを着実な成果へ

当中間期の主な取り組みとしては、まず対象疾患の領域を拡げた新しい呼吸器感染症迅速診断キットの発売や、主力の血球計数分野における最新機種の導入など、新製品の投入があげられます。また、ロシュ社との当社製品に関する販売・サービス契約を10年間延長し、細菌検査のリーディングカンパニーであるビオメリュー社と当社尿分析装置の販売・サービス契約を締結するなど、販売力の強化を図りました。

さらに、グローバルな拠点整備にも積極的に取り組みました。経済成長が期待される中欧での市場開拓の一環として、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコに拠点を整備しました。一方、中国では無錫工場が日本企業としては業界初となる「薬品生産許可証」を取得しました。また、株式会社シーエヌエーならびにシスメックスタイランドの完全子会社化、海外試薬生産工場の新設・拡張工事の完了など、事業基盤の整備を着実に進めています。

さらなる企業価値向上を目指しグローバルな事業展開を加速

米国では、病院市場における販売体制の基本的な整備を完了し、市場シェア拡大に向けた販売活動の強化に努めます。

欧州では、直接販売・サービスエリアの拡大を進めており、総合提案型の販売活動を拡大していきます。また、間接販売エリアでは、ロシュ社との契約更新により、お互いの強みを活かした販売体制の構築を進めています。

医療業界クリーンキャンペーンの影響が緩和されつつある中国では、充実した事業基盤を活かし、総合サプライヤーとして血球計数分野以外での活動を強化していきます。高機能化と医療インフラの整備が進むアジア・パシフィックでは、特に試薬の生産工場を新設したインドをはじめとし、急速な経済成長に伴う着実な事業拡大を目指します。

日本では厳しい状況が続いていますが、今後は血球計数分野と免疫血清分野において、新製品の販売活動を本格化します。総合サプライヤーとしての事業の充実により、一層の売上拡大を図っていきます。このように、グローバルに事業を展開し、それぞれの市場に即した取り組みを進めます。一方、ライフサイエンス事業も治験や市場導入の準備を着実に進めていきます。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

家次 恒

いえつぐ ひさし

【出身地】大阪【略 歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亞医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣 味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦【信 条】「意あらば通ず」

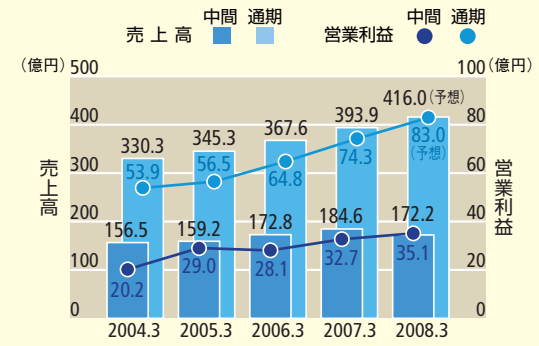
日　本

厳しい市場環境のなか、総合サプライヤーとしての事業を充実

■「血尿診断ガイドライン*」にて、赤血球数測定の意義が認められました。その結果、尿中有形成分分析装置UF-1000*i*の有用性に対する認知度が向上し、同装置の販売が好調に推移しました。

■血球計数分野の主力製品であるXEシリーズの新モデルとして、多項目自動血球分析装置XE-5000を市場導入しました。

多項目自動血球分析装置　XE-5000



※韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

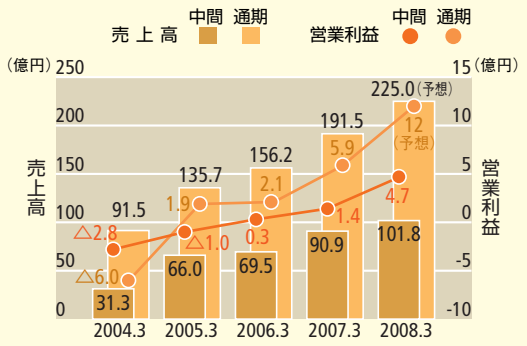
米　州（北米・中南米）

米国における シスメックスブランドの浸透 中南米市場の成長が加速

■米国では、シスメックスブランドの浸透が進み、血液センターやIHN*(統合医療ネットワーク)への血球分析装置の販売が順調に推移しました。

■中南米では、多項目自動血球分析装置XSシリーズが、お客様より高い評価を得ており、着実に販売実績を伸ばしたほか、ブラジルおよびグアテマラにおいて大型案件を受注しました。

多項目自動血球分析装置　XS-1000*i*

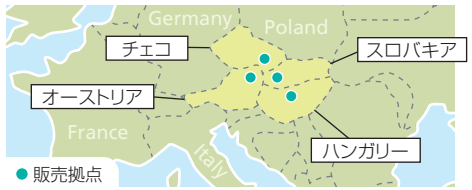


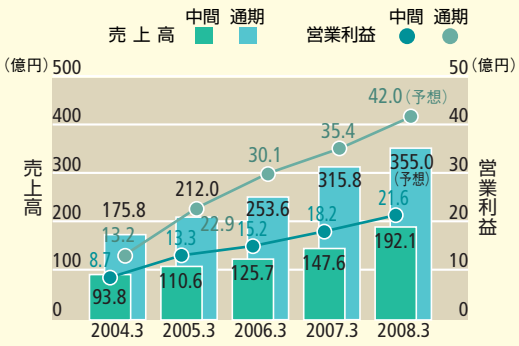
欧　州

直接販売エリアを拡大し、総合提案型の販売活動を促進

■スウェーデンの大学病院に総合血液検査システムHSTシリーズが導入されるなど、検査の質向上を提案するソリューションビジネスが拡大しています。

■経済成長に伴い医療インフラの整備が進む中東地域では、血球計数装置の販売が好調に推移しました。また、東欧地域でのさらなる需要拡大に備え、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコに販売拠点を新設しました。





*血尿診断ガイドライン：尿潜血反応陽性者に対する診断の進め方を提唱したもの。健康診断などで調べられる尿潜血反応は、腎臓疾患を含め、さまざまな疾患の診断契機となります。血尿診断ガイドライン検討委員会編。

*IHN：米国の統合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

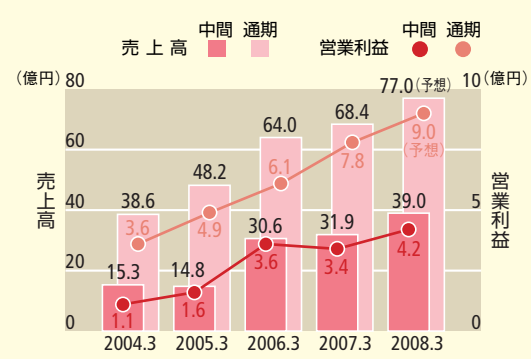
中　国

農村部では医療インフラの整備、都市部では機器の高機能化が進展

■政府主導により、農村部では医療インフラの整備が進んでいます。また、医療業界クリーンキャンペーンの影響は緩和されつつありますが、医療費の増加抑制に向けた検査収費（保険点数）の引き下げが進められており、依然厳しい市場環境にあります。

■都市部では、質の高い医療への関心が高まっており、血球分析装置のグレードアップ案件が増加しました。

総合血液検査システム XE-Alpha



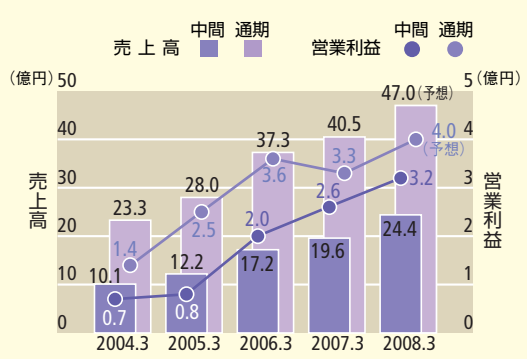
アジア・パシフィック

将来の需要増に対応した生産拠点の充実 経済発展に伴う事業拡大に期待

■医療インフラ整備の進展に伴う高機能装置の普及が期待されるなか、将来の試薬の需要増への対応とコスト競争力強化を目的に、シンガポール工場を拡張し、バディ工場（インド）の新設を完了しました。

■マレーシア・インドネシアにおいて、血球分析装置のグレードアップ提案を促進したほか、オーストラリアにおいて総合血液検査システムを含む大型案件を受注しました。

バディ工場（インド）



※韓国・台湾の売上および利益は除きます。

TOPICS
第41期中間期事業活動の動向

●販売体制　★新製品　●経営　◆その他

4月

●シスメックス グループ企業理念「Sysmex Way」を制定

◆当社技術が「平成19年度文部科学大臣表彰」を受賞

●オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコの4カ国の拠点整備の着手を発表

5月

●シスメックスグループ中期経営計画を発表

★呼吸器感染症迅速診断キット「ポクテムSシリーズ」3品目を発売

6月

●ロシュ社との当社製品に関する販売・サービス契約を更新

●ビオメリュー社と当社尿分析装置に関する販売・サービス契約を締結

10月

★微量の検体で高感度・迅速測定が可能な「全自動免疫測定装置HISCL-2000*i*」を発売

株主様アンケートのご報告

第41期 第1四半期報告（Be Fine!）にてお寄せいただいた株主様からのアンケート結果についてお伝えします。

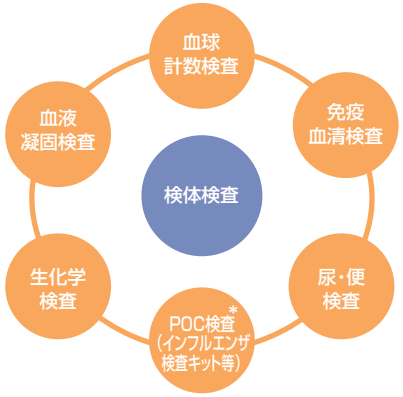
株主の皆様には、アンケートにご協力いただきありがとうございました。
数多くのご意見・ご要望を頂戴したなか、シスメックスの事業に関するご質問もいただきました。いくつかのご質問にお答えしたいと思います。
シスメックスをより深くご理解いただくためのご参考にしていただければ幸いです。

Q シスメックスの事業内容を簡単に教えてください。

A 主に「検体検査」の機器・試薬・検査情報システムをお届けしています。

シスメックスは、血液や尿などを検査する「検体検査」の領域で、機器、試薬および検査情報システムを提供しており、研究開発から製造・販売・サービス&サポートまで、幅広く事業を展開しています。検体検査領域のほぼ全ての検査領域において製品をお届けする総合メーカーです。

●シスメックスがカバーする主な検査分野



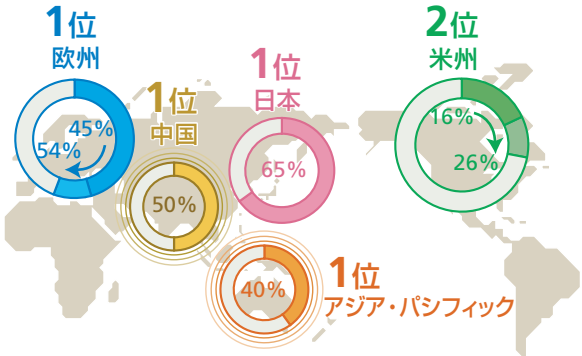
病院・医院（開業医）へ正しい検査結果を提供

Q 何が世界第1位なのですか？

A 血球計数分野での世界シェアです。

2007年3月期、シスメックスは過去最高の業績を達成し、売上高は1,000億円を超えました。また、赤血球や白血球を数える検査である**血球計数分野で、念願であった世界シェア第1位を獲得**しました。いち早くグローバル展開に着手し、世界を舞台に事業を展開してきた結果、現在では全売上高に占める海外売上高の割合は60%を超えています。

●シスメックスの血球計数分野でのシェア



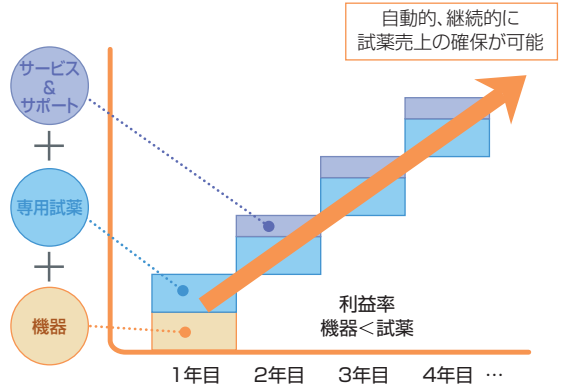
※当社シェアは2007年3月期の数字です。（当社推定）
※矢印の数字は中期経営目標を示します。

Q シスメックスの収益モデルの特長は？

A 機器の販売後も継続して安定した収益が得られることです。

当社の主力事業である血球計数分野は、機器と専用試薬をセットで販売しています。プリンターとインクカートリッジの関係と同じように、**機器の販売後も試薬と保守サービスの売上が伴うため、その後も継続した収益が見込めます。**特に試薬は機器に比べて利益率が高く、検査（検体）数の増加に伴い専用試薬の消費量も増え、より安定的な収益を確保することができます。

●血球計数分野の基本収益モデル



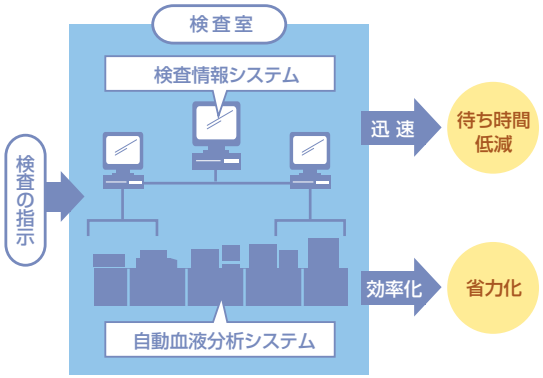
*POC検査：手術室や集中治療室、診察室、ベッドサイドなど、患者さんのすぐそばで迅速に行う検査。POC検査により、素早い診断や治療が可能となります。

Q 医療制度改革はシスメックスにとってどのような意味を持ちますか？

A 当社にとってビジネスチャンスだと捉えています。

医療制度改革において医療機関に求められるのは、患者さんにとって質の高い、効率的な医療を提供することです。当社は検査業務の効率化や省力化を支援するソリューションビジネスを展開しており、医療制度改革はビジネスチャンスだと捉えています。

●「機器+試薬+検査情報システム」により検査業務を自動化



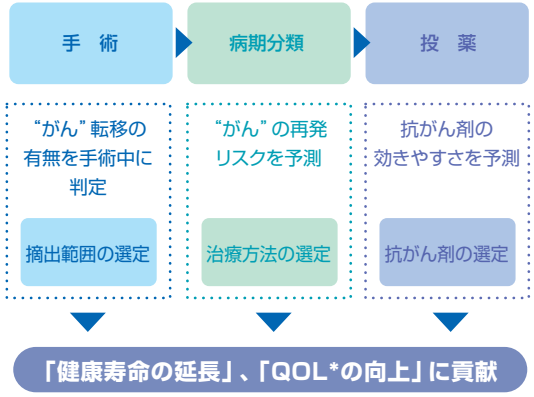
病院および検査室の複雑なニーズに対応

Q ライフサイエンス事業ではどのようなことをしているのですか？

A 「がん」をはじめとした疾患予防や再発予防に取り組んでいます。

医療が“予防医療”に転換するなか、当社は疾患マネジメント*をコンセプトにライフサイエンス事業に注力しています。これは、病気の予防や再発予防のために、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供する、価値の高い検査につながります。現在、がんをはじめ、糖尿病、血液疾患、感染症などを対象に研究開発を進めています。

●“がん”の治療・再発予防を支援



Q 配当に対する考え方を聞かせてください。

A 配当性向20%を目処にしています。

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向20%を目処に配当を行ってまいります。

このほかにもいただいたご意見の一部をご紹介いたします。

- ●将来性に期待しています。世界のシスメックスになってください。 (60歳代・男性)
- ●企業価値を高めるための企業努力を期待します。 (40歳代・男性)
- ●「タッチで続ける健康日誌」をもっと普及させてください。 (50歳代・女性)
- ●まだまだ会社名が浸透していません。もっと積極的なPRを。 (40歳代・男性)
- ●野口みずき選手を応援したいと思います。 (50歳代・女性)
- ●社会貢献とともに社会的責任やコンプライアンスに留意してもらいたい。(70歳代・男性)
- ●誠実な会社としての印象を裏切らないよう、今後も頑張ってください。 (50歳代・女性)

社長より

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただいた、たくさんの貴重なご意見・ご要望、ありがたく拝読させていただきました。当社の今後の経営や、株主の皆様との交流にぜひ活かしてまいりたいと思います。今後も、当社へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長
家次　恒

*疾患マネジメント：新しい検査を導入することで、一人ひとりの患者さんに最適な医療を提供するマネジメントシステムです。

*QOL：Quality of life（クオリティ・オブ・ライフ）とは「生活の質」という意味で、「人が人としての尊厳を保ち、より良く健康に生きること」を指しています。

BRICsにおける事業活動の強化と新たな市場の創出

グローバル市場の拡大に備え いち早く新興エリアの拠点を拡充

現在、グローバル市場では新興国が高い経済成長を続けています。特にBRICs（ブリックス）と呼ばれる4カ国、ブラジル・ロシア・インド・中国が著しく伸びています。これらの国々では、経済成長とともに医療インフラの整備が進められており、ヘルスケア市場の拡大が期待されます。

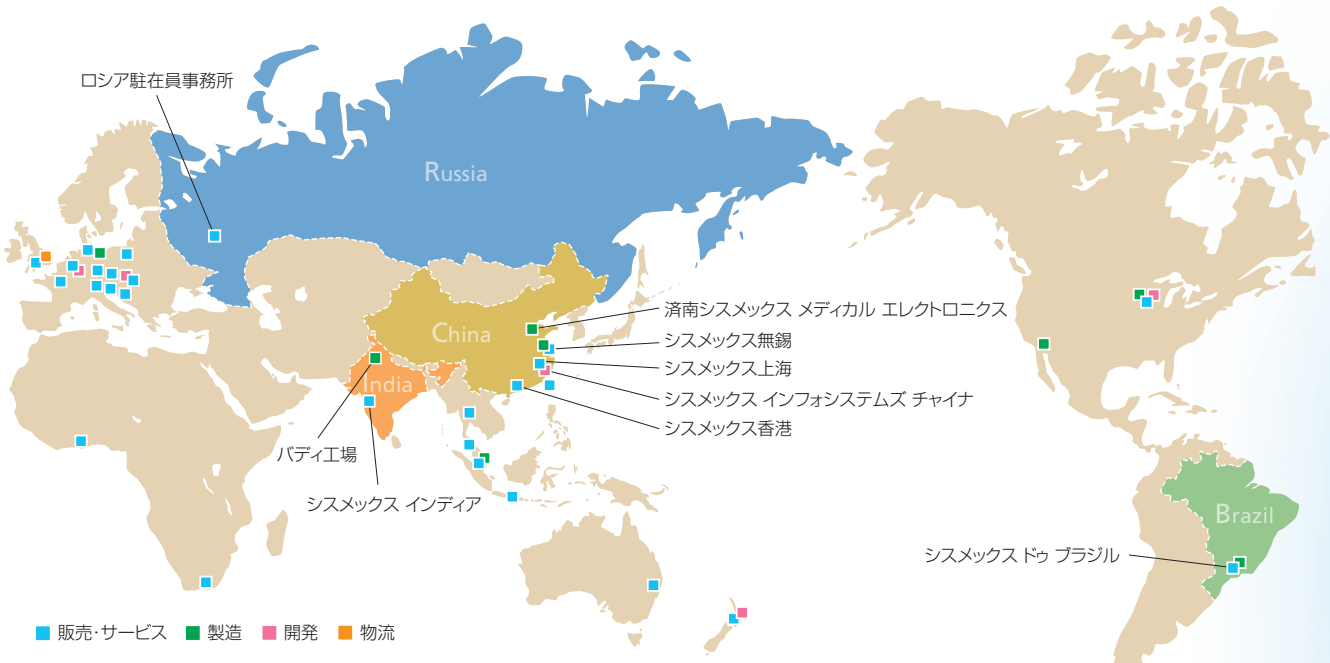
当社は早くからこうした動向を捉え、BRICsをはじめとする新興エリアにいち早く拠点を拡充してきました。BRICsにおいては、4カ国全てに自社のネットワークを保有しています。

■世界のGDP（国内総生産額）ランキング

2006年（実績）		2050年（予想）	
1位	米国	1位	中国
2位	日本	2位	米国
3位	ドイツ	3位	インド
4位	中国	4位	日本
5位	英国	5位	ブラジル
6位	フランス	6位	ロシア

出典:世界銀行

出典:ゴールドマン・サックス社「Dreaming with BRICs: The Path to 2050」（BRICsとともに見る2050年への道）2003年



■新興エリアにおける拠点拡充の沿革

ブラジル　Brazil

1998年　クリチバに現地法人設立（シスメックス ドゥ ブラジル）
2000年　ブラジル工場で試薬生産を開始

ロシア　Russia

2005年　モスクワに駐在員事務所開設

インド　India

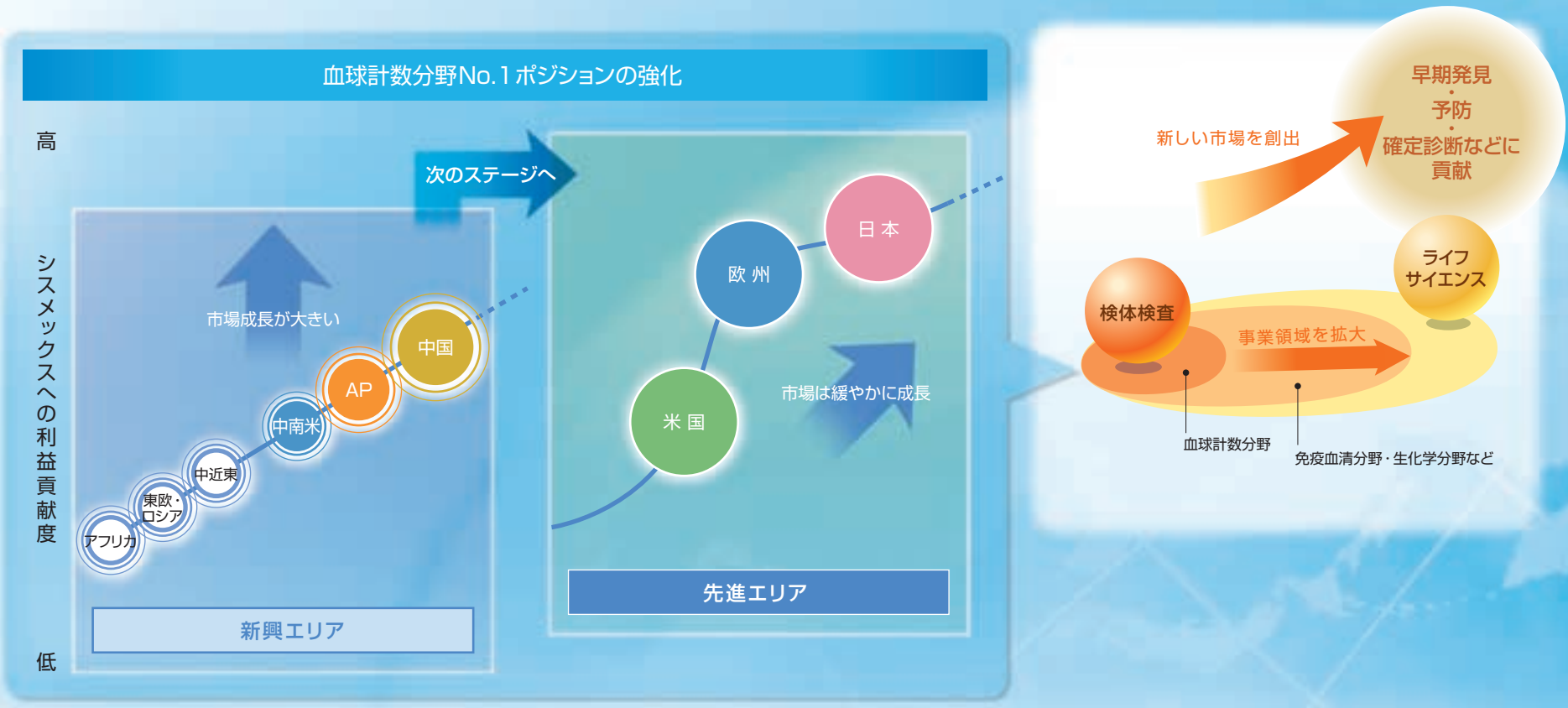
1998年　ムンバイに合弁会社設立（現 シスメックス インディア）
2006年　現地法人設立（シスメックス インディア）
2007年　試薬生産工場（バディ工場）完成

中国　China

1995年　済南に試薬生産合弁会社設立（現 済南シスメックス メディカル エレクトロニクス）
1999年　香港に現地法人設立（シスメックス香港）
2000年　上海に現地法人設立（シスメックス上海）
上海にソフトウェア開発拠点設立（シスメックス インフォシステムズ チャイナ）
2003年　無錫に第二試薬生産工場設立（シスメックス無錫）

その他新興エリア

1998年　シンガポール、マレーシアに現地法人設立
2001年　ベナン共和国にアフリカサービスセンター開設
2002年　インドネシアに現地法人設立
2005年　ポーランドに現地法人設立
2006年　南アフリカに現地法人設立
2007年　東欧4カ国（オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコ）に拠点を整備



グローバルNo.1を達成した血球計数分野で、さらなる成長を続けるために

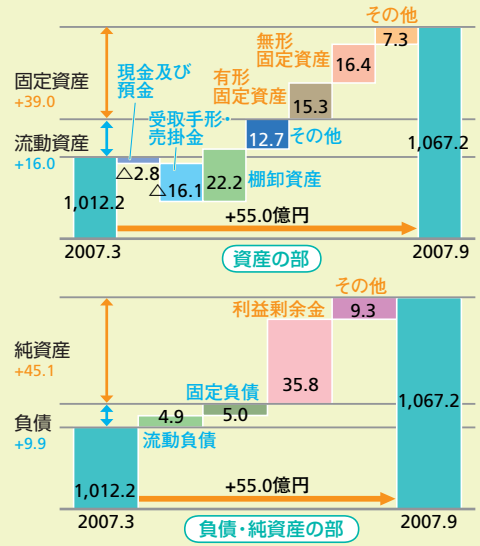
主力事業である血球計数分野において、当社は2007年3月期にグローバルNo.1を達成しました。これまでその成長を支えてきたのは利益貢献度の高い日本と欧州で、ともに市場シェア第1位として高く評価されています。また、世界最大のマーケットである米国では、直接販売体制を強化し、市場シェアの拡大に努めています。これら先進エリアに加え、新興エリアでの需要を確実に収益に結びつけることで、同分野でのさらなる成長を目指します。

検体検査領域での事業拡大と新しい検査技術の確立

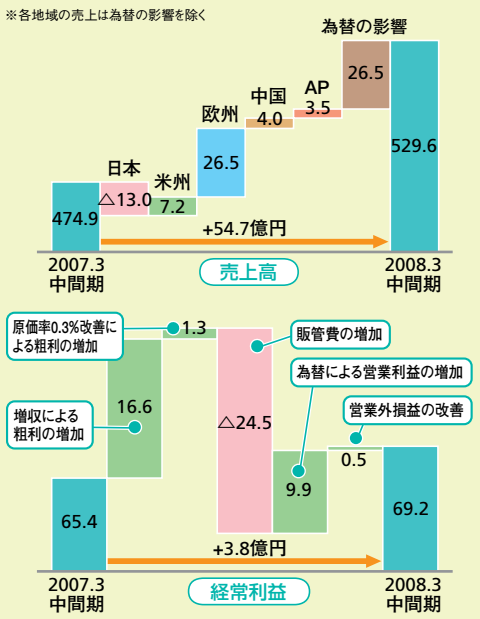
当社はさらに、免疫血清分野や生化学分野などにも事業領域を拡大しています。また、疾患マネジメントのコンセプトを取り入れ、従来のスクリーニング領域から確定診断領域へと範囲を拡げることで、新たな市場の創出を図っています。お客様に価値の高い検査を提供することで、検体検査領域におけるプレゼンスを向上し、安定的な高成長を実現していきたいと考えています。

一方、ライフサイエンス領域での市場創出にも取り組んでいます。高齢化とともに予防医療が重視されるなか、ライフサイエンスに関する技術を活用した検査技術の確立を目指しています。シスメックスは新しい医療と健康社会の実現に貢献しながら、新たなステージへの挑戦を続けていきます。

●貸借対照表の増減要因



●売上高・経常利益の増減要因



●資産及び純資産

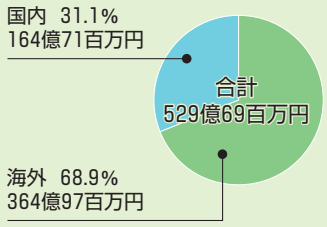
資産合計は、前期末と比べて54億99百万円増加し、1,067億25百万円となりました。主に、棚卸資産が22億22百万円、有形固定資産が15億25百万円、無形固定資産が16億41百万円それぞれ増加したこと等によるものです。一方、負債合計は、主に流動負債のその他に含まれる未払費用が4億76百万円増加したこと等により、9億89百万円増加し、298億18百万円となりました。

純資産合計は、主に資本剰余金が17億89百万円、利益剰余金が35億86百万円それぞれ増加したこと等により、前期末と比べて45億10百万円増加し、769億6百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末の70.5%から1.4ポイント上昇し、71.9%となりました。

●売上高

売上高は529億69百万円(前年同期比11.5%増)となり、仕向地別では、**国内売上高**は164億71百万円(前年同期比7.4%減)、**海外売上高**は364億97百万円(前年同期比22.8%増)、海外の構成比は68.9%(前年同期比6.4ポイント増)となりました。

地域別売上高(当中間期連結)



貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間期末 2007年9月30日現在	前期末 2007年3月31日現在	増減額
流動資産	67,725	66,120	
固定資産	39,000	35,104	
● **資産合計**	**106,725**	**101,225**	**5,499**
流動負債	26,126	25,634	
固定負債	3,692	3,195	
● **負債合計**	**29,818**	**28,829**	**989**
資本金	8,583	8,501	
資本剰余金	13,520	11,731	
利益剰余金	52,381	48,794	
自己株式	△176	△163	
● **株主資本合計**	**74,309**	**68,864**	**5,445**
その他有価証券評価差額金	567	805	
為替換算調整勘定	1,834	1,674	
評価・換算差額等合計	**2,402**	**2,480**	**△78**
新株予約権	**59**	**—**	**59**
少数株主持分	**135**	**1,051**	**△916**
● **純資産合計**	**76,906**	**72,396**	**4,510**
負債・純資産合計	**106,725**	**101,225**	**5,499**

損益計算書

(単位:百万円)

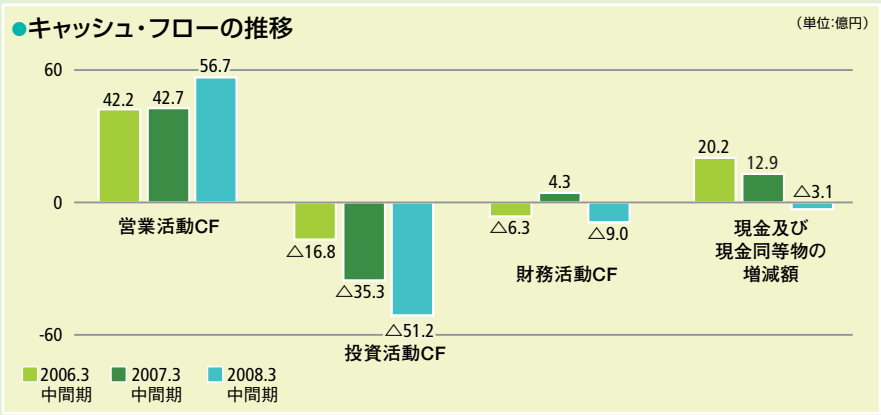
	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前年同期増減率(%)
● **売上高**	**52,969**	**47,495**	**11.5**
売上原価	21,642	19,725	
売上総利益	31,327	27,770	
販売費及び一般管理費	24,867	21,637	
営業利益	**6,459**	**6,133**	**5.3** ●
営業外収益	595	602	
営業外費用	134	192	
経常利益	**6,920**	**6,544**	**5.8** ●
特別利益	9	27	
特別損失	86	29	
税金等調整前中間純利益	**6,844**	**6,542**	**4.6**
法人税、住民税及び事業税	2,983	2,718	
法人税等調整額	△880	△360	
少数株主損益	△13	34	
中間純利益	**4,755**	**4,150**	**14.6** ●

キャッシュ・フロー計算書

（単位:百万円）

	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,673	4,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,123	△3,536
財務活動によるキャッシュ・フロー	△905	430
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	126
現金及び現金同等物の増減額	△311	1,294
現金及び現金同等物の期首残高	12,714	9,416
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増加高	8	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	12,412	10,710

●キャッシュ・フローの推移



●営業利益・経常利益・中間純利益

販売・サービス、間接費用等の販売費及び一般管理費の増加を増収効果により補い、**営業利益**は64億59百万円（前年同期比5.3%増）となり、**経常利益**は69億20百万円（前年同期比5.8%増）、**中間純利益**は47億55百万円（前年同期比14.6%増）となりました。

●キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前期末より3億2百万円減少し、124億12百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。なお、一部の連結子会社の決算期を変更したことによる各キャッシュ・フローに含まれない現金及び現金同等物の増加額は、8百万円となりました。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、56億73百万円（前年同期比14億円増）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が68億44百万円（前年同期比3億2百万円増）となったこと、売上債権の減少額が17億95百万円（前年同期は13億3百万円の増加）となったこと、棚卸資産の増加額が15億47百万円（前年同期比8億97百万円増）となったこと等によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、51億23百万円（前年同期比15億86百万円増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が25億28百万円（前年同期比3億20百万円増）となったこと、無形固定資産の取得による支出が10億61百万円（前年同期比4億43百万円増）となったこと等によるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、9億5百万円（前年同期は4億30百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の純減少額が10百万円（前年同期は4億10百万円の純増）となったこと、ストック・オプション行使に伴う株式の発行による収入が1億63百万円（前年同期比4億98百万円減）となったこと等によるものです。

中間株主資本等変動計算書

2007年4月1日から2007年9月30日まで

（単位:百万円）

	株主資本				評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式				
2007年3月31日残高	8,501	11,731	48,794	△163	2,480	—	1,051	72,396
新株の発行(新株予約権の行使)	81	81						163
新株の発行(株式交換)		1,706						1,706
剰余金の配当			△1,011					△1,011
中間純利益			4,755					4,755
自己株式の取得				△12				△12
自己株式の処分		0		0				0
連結子会社の決算期変更に伴う減少高			△157					△157
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					△78	59	△915	△934
2007年9月30日残高	8,583	13,520	52,381	△176	2,402	59	135	76,906

財務諸表の概要 | 単 独

貸借対照表

（単位:百万円）

	当中間期末 2007年9月30日現在	前期末 2007年3月31日現在	増減額
流動資産	45,386	46,649	
固定資産	46,800	42,831	
資産合計	**92,187**	**89,481**	**2,706**
流動負債	18,802	20,327	
固定負債	1,258	1,272	
負債合計	**20,061**	**21,599**	**△1,538**
資本金	8,583	8,501	
資本剰余金	14,451	12,662	
利益剰余金	48,687	46,132	
自己株式	△176	△163	
株主資本合計	**71,546**	**67,132**	**4,414**
その他有価証券評価差額金	520	749	
評価・換算差額等合計	**520**	**749**	**△229**
新株予約権	**59**	**—**	**59**
純資産合計	**72,126**	**67,881**	**4,245**
負債・純資産合計	**92,187**	**89,481**	**2,706**

損益計算書

（単位:百万円）

	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	前年同期 増減率（%）
売上高	**30,292**	**29,291**	**3.4**
売上原価	13,054	13,217	
売上総利益	17,238	16,074	
販売費及び一般管理費	13,745	13,414	
営業利益	**3,492**	**2,659**	**31.3**
営業外収益	2,235	1,836	
営業外費用	129	143	
経常利益	**5,598**	**4,353**	**28.6**
特別利益	136	2	
特別損失	525	6	
税引前中間純利益	**5,209**	**4,349**	**19.8**
法人税、住民税及び事業税	1,932	1,572	
法人税等調整額	△290	△294	
中間純利益	**3,567**	**3,071**	**16.2**

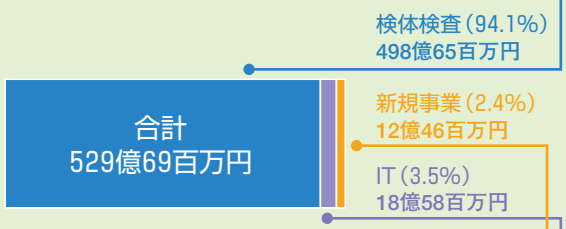
中間株主資本等変動計算書

2007年4月1日から2007年9月30日まで

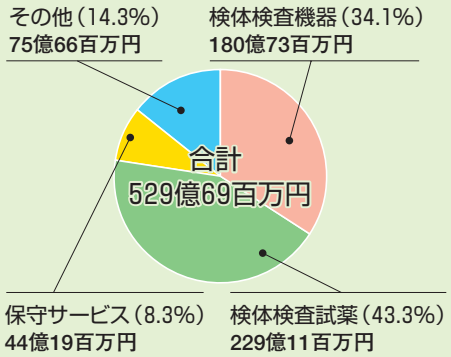
（単位:百万円）

	株主資本				評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2007年3月31日残高	**8,501**	**12,662**	**46,132**	**△163**	**749**	**—**	**67,881**
新株の発行（新株予約権の行使）	81	81					163
新株の発行（株式交換）		1,706					1,706
剰余金の配当			△1,011				△1,011
中間純利益			3,567				3,567
自己株式の取得				△12			△12
自己株式の処分		0		0			0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)					△228	59	△169
2007年9月30日残高	**8,583**	**14,451**	**48,687**	**△176**	**520**	**59**	**72,126**

■事業別売上高（当中間期連結）



■品目別売上高（当中間期連結）



お買い物ついでに健康チェック！

健康管理支援サービス※「タッチで続ける健康日誌」

1～4の測定値と設問への回答結果をもとに、健康情報をご提供するサービスです。現在、全国のイオングループ27店舗の店頭でご利用いただけます。

（2007年11月2日現在）

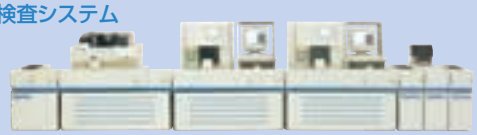
詳しくはホームページをご覧ください。

http://prowell.jp

※本サービスで提供される内容は、病気を診断するものではありません。健康状態に不安がある場合は医師の診察を受けてください。

検体検査

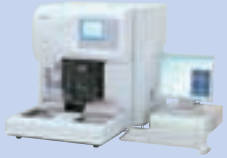
■総合血液検査システム



HSTシリーズ

XE-Alpha

■血球計数検査



多項目自動血球分析装置 XE-5000

多項目自動血球分析装置 XT-2000*i*

多項目自動血球分析装置 XS-1000*i*

■血液凝固検査

全自動血液凝固測定装置 CS-2000*i*

全自動血液凝固測定装置 CA-500

■免疫血清検査

免疫凝集測定装置 PAMIA-40*i*

全自動免疫測定装置 HISCL-2000*i*

■尿検査・便検査

全自動尿中有形成分分析装置 UF-1000*i*

IT

■検査情報システム

臨床検査情報システム SIS

血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA

新規事業

■産業用粒子計測

フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000

シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000

■ヘルスケア

末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU

■POC検査

多項目自動血球計数装置 pocH-100*i*

自動血液凝固測定装置 CA-50

呼吸器感染症迅速診断キット ポクテムS インフルエンザ

■検体検査試薬

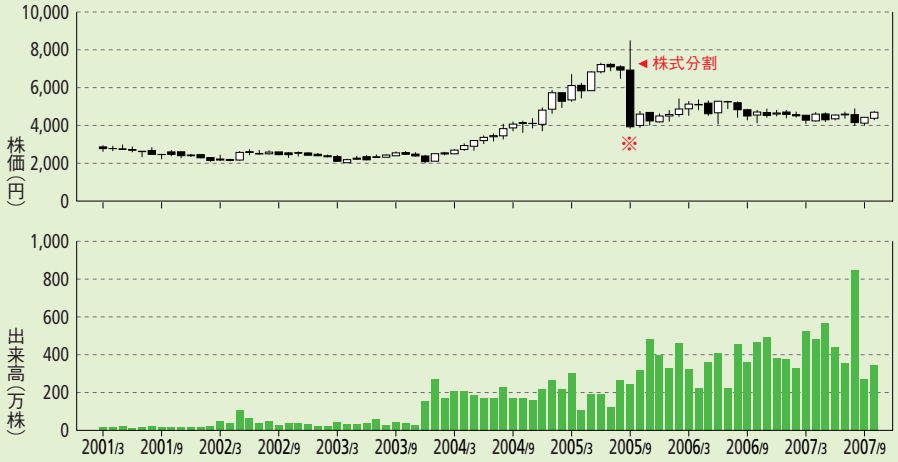
●株式の状況 （2007年9月30日現在）

■会社の発行可能株式総数　149,672,000株

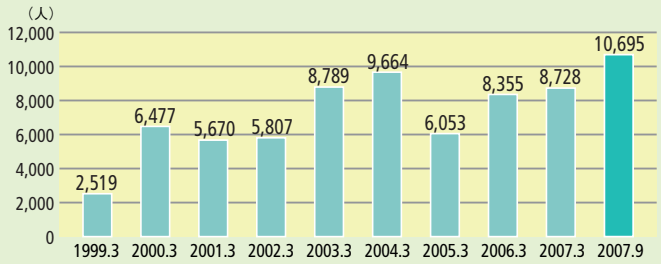
■発行済株式総数　51,122,708株

■株価・出来高の推移（2007年10月31日現在）

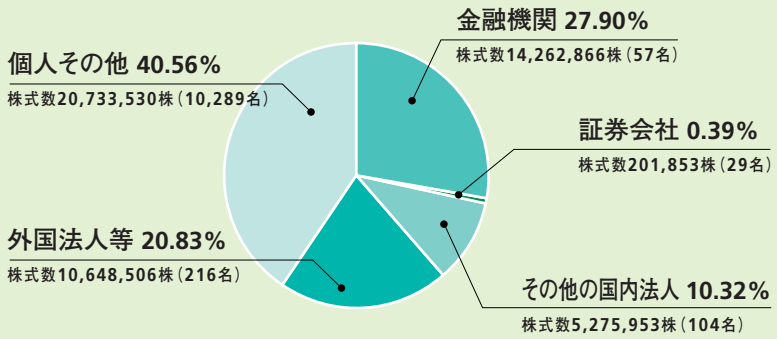
※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



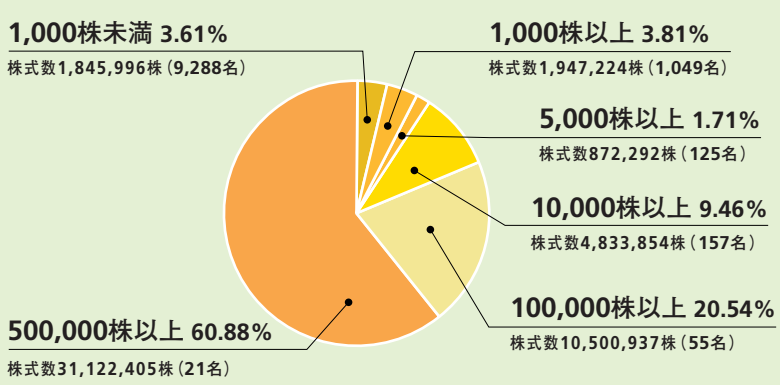
■株主数の推移



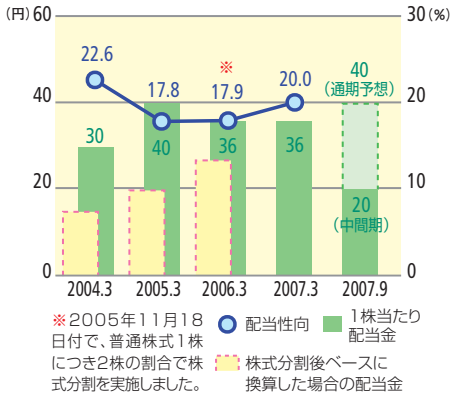
■所有者別分布状況



■所有数別分布状況



配当性向（連結）/1株当たり配当金



配当政策

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向20%を目処に配当を行ってまいります。

●会社概要 （2007年9月30日現在）

■商　　号　シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
（1998年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更）

■設立年月日　1968年2月20日

■資 本 金　85億8,327万円

■格 付 け　A （R&I:格付投資情報センター）

■従業員数　1,317名
※上記の従業員数には関係会社への出向者207名および嘱託、パートタイマー234名は含んでおりません。

■主な事業の内容　臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

■主な事業所

本　　社　〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL.078-265-0500（代）
FAX.078-265-0524

ソリューションセンター　テクノセンター　研究開発センター
加古川工場　小野工場*　西神工場*
東京支社／東京支店　仙台支店　北関東支店　名古屋支店
大阪支店　広島支店　福岡支店
営業所　札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、静岡、金沢、京都、神戸、高松、岡山、鹿児島
首都圏サービスセンター

*シスメックス国際試薬株式会社

■主な関係会社

シスメックス国際試薬株式会社
シスメックスメディカ株式会社
トーアメディカル株式会社
シスメックス物流株式会社
シスメックスRA株式会社
株式会社シーエヌエー
SYSMEX AMERICA,INC.（アメリカ）
SYSMEX REAGENTS AMERICA,INC.（アメリカ）
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.（ブラジル）
SYSMEX EUROPE GMBH（ドイツ）
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH（ドイツ）
WELLTEC GMBH（ドイツ）
SYSMEX UK LIMITED（イギリス）
SYSMEX LOGISTICS UK LTD.（イギリス）
SYSMEX BELGIUM S.A.（ベルギー）
SYSMEX FRANCE S.A.S.（フランス）
SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA,S.R.O.（スロバキア）
SYSMEX POLSKA S.P.Z O.O.（ポーランド）
SYSMEX SOUTH AFRICA（PTY）LTD.（南アフリカ共和国）
SYSMEX DIGITANA AG（スイス）
SYSMEX AUSTRIA GMBH（オーストリア）
SYSMEX SLOVAKIA（スロバキア）
SYSMEX HUNGARIA KFT.（ハンガリー）※登記手続中
SYSMEX CESKA REPUBLIKA S.R.O.（チェコ）※登記手続中
済南希森美康医用電子有限公司（中国）
希森美康香港有限公司（中国）
希森美康医用電子（上海）有限公司（中国）
希森美康電脳技術（上海）有限公司（中国）
希森美康生物科技（無錫）有限公司（中国）
SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD.（シンガポール）
SYSMEX（MALAYSIA）SDN BHD（マレーシア）
SYSMEX INDIA PVT. LTD.（インド）
SYSMEX（THAILAND）CO.,LTD.（タイ）
SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.（台湾）
SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED（ニュージーランド）
PT. SYSMEX INDONESIA（インドネシア）

●株主メモ （2007年9月30日現在）

■事業年度　毎年4月1日から翌年3月31日まで

■定時株主総会　6月

■基準日

定時株主総会	3月31日
期末配当金	3月31日
中間配当金	9月30日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。

■公告掲載新聞　日本経済新聞

■上場証券取引所　東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部

■証券コード　6869

■単元株式数　100株

■株式事務

株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
（郵便物送付先・電話照会先）	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

お知らせ
1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人の電話0120-684-479（通話料無料）で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2.配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
3.単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは株主名簿管理人にお問い合わせください。

●役員のご紹介 （2007年9月30日現在）

代表取締役社長	家次 恒	
取締役 専務執行役員	雪本 賢一	
取締役 常務執行役員	和歌 光雄	
取締役 常務執行役員	岩﨑 爲雄	
取締役 常務執行役員	林 正好	
取締役 執行役員	中谷 正	
取締役 執行役員	大東 重則	
取締役 執行役員	中島 幸男	
取締役 執行役員	田村 幸嗣	
常勤監査役	明田 光弘	
常勤監査役	岩田豊太郎	
監査役	石田 義曉	
監査役	藤岡 弘	

＊ IR・広報室からのお知らせ ＊

個人投資家様向け IRイベントに参加!

9月2日にホテル阪急インターナショナル（大阪）にて証券会社協賛「個人投資家様向け会社説明会」が開催されました。約500名の来場者を前に、会社の概要、戦略を社長の家次より説明いたしました。ご参加いただいた方に当社が医療に貢献する企業であることをご理解いただくとともに、私たちの生活にとって身近な会社であることを感じていただけたと思います。

また、11月30日から2日間にわたり東京にて開催された証券会社主催のIRフェアにも出展しました。昨年に引き続き、非常に多くの個人投資家の皆様にお越しいただき、当社の知名度の向上と事業内容をご紹介できる良い機会となりました。

今後も個人投資家の皆様から頂戴したご意見を活かし、個人投資家様向けIRイベントへの参加をはじめとしたIR活動を推進してまいります。

個人投資家様向け会社説明会

神戸ビエンナーレ、ピンクリボンフェスティバルに協賛!

10月6日より11月25日まで、芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ2007」が開催されました。ビエンナーレは、2年に一度開かれる美術展覧会の名称で、今年は「出合い〜人・まち・芸術」をテーマに行われました。港町としての発展を象徴するコンテナを用いて、芸術文化が集い出合う場として、さまざまな展示やイベントが催されました。地元神戸の活性化につながるこの神戸ビエンナーレに対し、当社は地域社会貢献活動の一環として協賛寄付を実施しました。

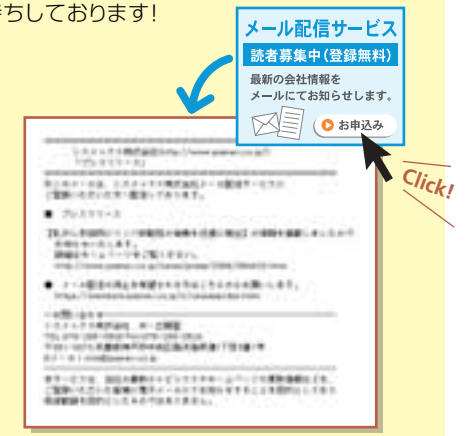
また、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を訴え、ピンクリボンフェスティバル（朝日新聞社など主催）の支援も行っています。10月27日には、神戸ポートピアホールでシンポジウムが開かれ、女優の音無美紀子さんが、乳がんとどのように向き合い、共に歩んでいるかというご自身の体験などについて語りました。

※このピンクリボンマークはピンクリボンフェスティバル（朝日新聞社など主催）のマークです。

ピンクリボン シンポジウム(神戸)
［写真提供:朝日新聞社］

メール配信サービスはご登録されましたか?

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせする「メール配信サービス」では、随時最新の情報を発信しています。ご登録のお手続きは簡単で、購読は無料です。多くの皆様のご登録をお待ちしております!



最新のプレスリリース・IRトピックスを配信します。

ご登録はこちらへ
www.sysmex.co.jp/ir/m_mag.html

Check!

「東京国際女子マラソン大会」（11月18日開催）で、シスメックス女子陸上競技部・野口みずき選手が大会新記録にて優勝しました。ご声援ありがとうございました。

（IR・広報室 S・H）

再生紙、大豆油インキを使用しています。